

介護保険事業課 所管業務

事業区分	自主事業 (介護保険事業)	事業名		居宅介護支援事業		事業内容	利用者に必要な援助を考えて居宅介護サービス計画を作成し、各サービス事業者との調整、サービス受給に関する調整を図りつつ給付管理を行う。(営業日及び営業時間)年末年始を除く月～金、時間は8:30～17:15。									
		担当課		介護保険事業課												
実績集計																
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	総計	
新規契約者数	3	2	4	0	2	3	14	3	4	7	2	2	5	23	37	
契約終了者数	4	1	1	3	0	2	11	2	3	1	0	2	3	11	22	
現契約者数	102	103	106	103	105	106	625	107	108	114	116	116	117	678	1,303	
実利用者数	99	93	101	100	98	99	590	98	100	105	102	102	105	612	1,202	
評価																
上半期評価	・介護支援専門員1人が担当できる利用者の上限が35名であるが、上半期は1人平均33名となっている。基準内に収まるように調整し、地域包括支援センター等からの困難ケースにも即応できる体制としている。 ・施設入所等で契約終了もあるが、新規利用は月平均2件となっている。 ・今年度上半期は昨年同期に比べ実利用者数、売り上げともに増えている。															
年度評価	・令和2年度は、1202名（うち新規契約37名）で、前年比59名増、給付費で927,740円の増額となっている。 新規利用者の紹介は、包括支援センターや病院の相談員からの依頼が大半を占めるが、本人、家族から直接の依頼もあった。 ・介護支援専門員1名が担当できる上限があるが、できるだけ断らないよう、事業所内で調整し利用者を増やしてきた。 ・週1回事業所内で会議を開催して情報を共有し、困った事があれば、その都度相談し1人で抱え込まずにチームで考え解決するようにしてきた。															

事業区分	自主事業 (介護保険事業)	事業名	訪問介護事業		事業内容	介護保険認定者の利用者宅へホームヘルパーが訪問し、身体介護や調理、掃除等の生活援助サービスを提供する。 (営業日及び営業時間) 365日対応で、事務所営業時間は8：30～17：15。										
		担当課	介護保険事業課													
実績集計																
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	総計	
新規契約者数	0	1	3	1	1	1	7	3	2	2	3	0	3	13	20	
契約終了者数	0	0	3	1	2	3	9	2	4	2	1	2	3	14	23	
現契約者数	56	57	57	57	56	54	337	55	53	53	55	53	53	322	659	
月間延利用者数	590	596	561	587	560	561	3,455	567	511	569	506	484	554	3,191	6,646	
評価																
上半期評価	長期入院や施設入所等により、契約者数等の減少は見られるが、上半期、売り上げに関しては昨年度に比べ増加している。															
年度評価	利用者の介護度が上がってきており、入院や施設入所、ショートステイ利用、体調不良等で前年に比べ延べ利用者数、利用回数ともに減少している。															

事業区分	自主事業 (介護保険事業)	事業名	通所介護事業		事業内容	デイスサービスセンター「のじぎく荘」において、入浴、食事、健康チェック、機能訓練等のサービスを提供する。年末年始を除く毎週月～土曜日まで、1日6～8時間で営業している。									
		担当課	介護保険事業課												
実績集計															
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	総計
新規契約者数	2	2	3	0	0	2	9	4	6	2	4	1	4	21	30
契約終了者数	3	1	2	1	0	1	8	1	4	3	0	0	2	10	18
現契約者数	56	57	58	57	57	58	343	61	63	62	66	67	69	388	731
月間利用者数	677	674	738	720	674	658	4,141	683	648	702	642	659	779	4,113	8,254
評価															
上半期評価	昨年度に比べ、4月・5月の利用者数は伸びており、前年同期より収入が8％の増となっている。コロナの影響による収支状況の変化は無いが、夏場の酷暑により体調不良で利用を休まれたり、入院される利用者が何名かおり、現在やや利用者数の減少となっている。事業所のコロナ対策として、迎え時乗車前の検温の実施、マスク着用の徹底、昼食前のテーブル消毒、手洗い・手指消毒の徹底、歯磨き時の歯ブラシ・コップの洗浄、送迎車両、ホール全体の消毒の徹底、啓発記事の掲示等を実施し、安全・安心の環境整備に万全を期している。家族からも取り組みに対し高い評価を得ている。 また、施設のトイレ掃除に専属職員を配置したことでケアワーカーの負担が軽減され、スムーズな送迎が可能となった。小さなことであるが、常に業務改善を念頭に、良質なサービス提供に心がけている。 当面はコロナ対策を第一に考え、事業を遂行していきたい。														
年度評価	下半期について、新規利用契約が増え契約者数の増加となっている。コロナ対策を十分行いながらの業務遂行によりコロナの発生もなかった。引き続き継続した対応で運営を行っていく。経営面に関しては、正職員数が1名なので、他の事業所より正職員給与は大きく抑えられている。また、今年度、軽自動車を2台廃車、新たに7人乗りの乗用車を購入（公費購入にて実質費用発生なし）したことにより、車両関係費の削減、同時に利用者6名の送迎が可能となり、業務の効率化を図ることができた。収入に関しても、前年度より137万円の増、前年度比率103％となった。しかし、今後も正職員1名で全業務を行っていく場合、直接介護業務にあたる時間が増えるとその他の管理業務等に支障が出てくると懸念している。また、サービス担当者会や会議などにも出席できないといった状況も考えられる。人員基準を目安にしているが、それだけに注視する考え方は、臨時職員が急に休みたい時に休めないといった状況や個々の業務負担の増加によるストレスなども懸念され、離職を考える職員が出てくる可能性も高く、現在の中土佐町における介護の担い手不足にさらに拍車をかける危険性がある。また、介護報酬の改定により、体制加算の算定基準が見直され、前回までは、勤続年数3年以上の職員割合が30％以上の条件が、4月から同基準が7年以上と大きく引き上げられ、現在の職員が離職するような事があれば、算定も出来なくなる可能性が高い。介護度においても、前年度3月期、要介護2～5までの割合が62％だったのに対して、今年度同月は69.5％と介護にかかる負担も大きくなっており、今後ますます負担は大きくなっていく事は顕著である。今後、デイスサービスにおける現状や実情、地域性に考慮した人員の配置や運営が必要だと考えている。														

事業区分		自主事業 (介護保険事業) (障害福祉 サービス事業)	事業名		訪問入浴介護事業			事業内容	利用者の居宅を訪問し、移動式浴槽により入浴のサービスを提供する。重介護認定者が多い。							
			担当課		介護保険事業課											
実績集計																
項目／月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	総計
介護 保険	新規契約者数	0	1	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	3	4
	契約終了者数	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	現契約者数	1	2	2	1	1	1	8	2	2	3	3	4	4	18	26
	延利用者数	12	14	12	13	13	13	77	19	17	18	28	27	29	138	215
障害 サー ビス	新規契約者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	契約終了者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	現契約者数	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	12
	延利用者数	6	6	8	8	4	9	41	5	8	12	8	9	52	52	93
評価																
上半期評価		介護保険利用者は、4月より週2回から週3回に利用が増えている。5月には新規の契約もあったが、終末期の利用者のため短期間で利用で終わった。 障害サービス利用者は、昨年度途中で週1回から週2回に増えた。体調は良好で、ショート・ステイを利用しない月は利用回数が多くなっている。														
年度評価		下半期は新規利用が3名増えて実人員は5名となり、それぞれ週2回～3回の利用であって延べ利用者数も多くなった。利用者には気持ちよく入浴サービスが提供でき喜んでもらっている。営業日は週4日。多い日は1日4名の利用があり職員の体調も心配なことから、介護方法等を工夫して負担が軽減できるようにしている。今後は交代要員の確保を視野に入れなければならない。														

障害福祉課 所管業務

事業区分		自主事業		事業名	相談支援事業所				事業内容		障害者が地域で自立した日常生活・社会生活を営むことができるように支援することを目的とし、「日常生活全般にわたる相談（受託事業）」「障害児（者）の計画相談支援」「地域移行・定着支援」を行う。					
				担当課	障害福祉課											
103																
項目／月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年間計
計画 相談	新規契約数	0	1	3	1	0	1	6	1	0	1	0	1	3	6	12
	契約終了数	1	0	1	1	2	1	6	0	0	0	0	1	0	1	7
	現契約数	59	59	62	62	61	60	—	60	60	61	61	64	64	—	—
	相談件数	123	103	129	119	96	122	692	98	97	109	101	100	140	645	1,337
包括 相談	相談支援件数	6	14	5	7	19	18	69	9	12	12	3	12	13	61	130
評価																
上半期評価		<ul style="list-style-type: none"> 計画相談支援の契約数は、増減があるものの横ばいである。新規契約者の傾向では若年層が就労継続支援事業所利用の意向によるものが多い。また、契約終了の半数が死去、入院によるものであった。 包括相談支援については、自発的に相談されない人に対し、こぼれなく支援できる方策を、委託機関（中土佐町）とともに検討していきたい。 														
年度評価		<ul style="list-style-type: none"> 計画相談支援の新規契約者の傾向としては、就労継続支援事業所の利用希望者が多い。 包括相談支援の件数は少ないが、新規利用になった方は、おおむね障害福祉サービスや地域活動支援センターへの利用につながることができた。 最近の利用者の傾向から、在宅で過ごしていた中年層が若い時から障害があったが診断がついていなかったケースが増えていることから、地域福祉や行政と連携し、包括相談支援の充実を図れるよう検討が必要である。 														

事業区分	受託事業 (中土佐町)	事業名	地域活動支援センター つどい処		事業内容	中土佐町地域活動支援センター「つどい処」での創作活動や生産活動を通して、障害者の自立と社会参加を図る。									
		担当課	障害福祉課												
実 績 集 計															
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年間計
開所日数	12	15	22	21	20	20	110	19	19	20	19	18	23	118	228
新規契約数	1	1	1	4	-	1	8	2	-	-	-	-	1	3	11
現契約数	78	79	80	84	84	85	85	87	87	87	87	87	88	88	88
集いの場 利用者数	128	178	237	238	242	239	1,262	264	246	240	231	240	313	1,534	2,796
相談件数	96	61	65	52	54	39	367	52	39	50	44	41	34	260	627
評 価															
上半期 評価	<ul style="list-style-type: none">・上半期は新型コロナウイルス感染防止対策により、集いの場や各種活動プログラムの中止、縮小が多数あった。また、緊急事態宣言時のつどい処の閉所により開所日数は前年度上半期に比べ14日減少し、4～5月の集いの場の利用者数が200名程度減少した。・相談件数が4月に増えたのは、閉所期間中に定期的に来て利用している利用者に対して電話にて健康状態や生活状況の確認、不安に対する相談などを行ったためである。・上半期は精神障害のある若年層の新規利用者が多く、就労に向けての生活リズム作りや人との関りを求めて集いの場を利用している。・下半期は、新型コロナウイルス感染防止対策と活動プログラムの実施の両立を目指し、新しい生活様式の中でも利用者が社会参加や自立に向けて活動できる内容を検討していく。														
年度評価	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染防止対策のため、プログラムの減少やボランティア等地域住民との関わりが少なくなったが、集いの場に仲間との関わりや誰かと一緒に過ごすことを目的とした利用者が増加したため、仲間と一緒に創作活動を楽しんだり、ミーティングをする機会などを増やした。また、利用者が来所時や自宅での時間を充実できるよう、新たな趣味の発見や広がりにつながるよう支援した。・利用者の傾向として、仕事を退職した人や仕事へのチャレンジをしたいものの、体調が整わない若年層が増加しており、双方の利用者からは「人の役に立つことをしたい」との発言がきかれている為、自己有用感を得られ、社会貢献につながる新たなプログラムの検討が必要である。・啓発活動では、地域で行う機会は少なかったものの、当事者の体験談の発表やスポーツを通じた地域の小学生との交流や社協だより等で体験談の発表を行った。・利用者自ら行う啓発活動は利用者にとってエンパワメントの機会にもなっており、次年度はさらなる充実が図れるよう取り組んでいく。														

事業区分	自主事業	事業名	就労継続支援B型事業	事業内容	対象：知的・精神・身体・発達障害者及び難病患者 内容：その利用者の望む暮らしの実現に向けて、就労生活において必要な生活支援や就労訓練を提供し、就労時間等に応じて工賃を支払う。										
		担当課	障害福祉課												
実績集計															
項目／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計	年間計
新規契約数	0	1	0	0	0	1	2	0	0	1	1	1	0	3	5
契約終了数	0	1	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	1	3
現契約数	18	18	18	18	18	18	108	18	18	18	19	20	20	113	221
評価															
上半期評価	<ul style="list-style-type: none">・登録者数は18人で推移し1日平均の利用者は12名前後である。今後も事業対象を町内の障害者を主対象とした場合、登録者数は20名前後で推移する見込みである。・昨年度、事業収支の赤字要因の一つであった店舗事業は、8月から内部異動で職員配置を2名から3名に変更し、主とする弁当販売に関し、「販売日の拡大」、「弁当の日替わり化」、「高齢者等への配達」等々に新たに組み組んだ。結果、8月・9月は数万円程度だが黒字に転じている。・職員体制は9月末で2名が退職し、10名から8名になった。限られた職員数で、必要な就労支援・生活支援を提供できるよう、店舗・ストックヤード・事務局での業務の見直しを行っていく。														
年度評価	<ul style="list-style-type: none">・登録者数は3月時点では20人だが、休んでいる人、利用日数が少ない人などもおられるため、年間の1日平均利用者数は約12人であった。給付費収入は前年度と比べ115万円のプラスであった。・店舗事業の事業収支は、売上げが月によって20万円程度の開きがあるものの、下半期の月の収支は11月以外は黒字で、年度末の収支は約20万円の黒字となった。・8名の職員のうち、3月に2名の退職があり1名の補充ができていない。職員の確保と、加えて就労支援サービスが安定して提供できる職員体制づくりが引き続き課題である。														

会務の運営		所管課	健康福祉課 障害福祉係	委員会・会議名	自立支援協議会 相談支援部会
委員及び指導者名		部会長：中土佐町相談支援事業所 平井千鶴 委員：中土佐町健康福祉課 沖屋亜季・山口早苗、中土佐町社会福祉協議会 槌田由美・宮川悦子・有沢希望			
回	開催日時	開催場所	協議事項等		
1	令和 2年 6月4日 9：15～ 12：00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価		
			(2) 共生型デイサービスのニーズについて		
			(3) 令和2年度の相談支援部会の取り組みについて		
			決定事項・所感等	コロナウイルス感染拡大時の相談支援部会の実施について、オンラインなどを利用して実施していく方向性が確認された。	
2	令和 2年 6月25日 9：15～ 12：00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価		
			(2) 施設入所者のがんの早期発見できる取り組みについて		
			決定事項・所感等	病院受診や服薬等が継続できていない精神障害者への支援について議題に上がったが、相談支援部会の中での検討は難しく、一陽病院が参加する医療と地域の連携会議の中で検討することとした。	
3	令和 2年 7月30日 9：15～ 12：00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価		
			(2) 無収入、低所得者の方への交通費助成について		
			(3) 地域移行について		
			決定事項・所感等	就労継続支援B型事業所の利用者のうち、高齢化や病状の進行により身体機能の低下がみられる方の次のサービス利用への意向について検討がなされた。事業所の受け入れ態勢や、本人や家族の意向、医師の見立てなどを含めて検討が必要である。	
4	令和 2年 8月21日 9：15～ 11：30	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価		
			(2) 緊急的、一時的に金銭管理支援が必要なケースについて		
			(3) 障害福祉計画アンケートの実施について		
			決定事項・所感等	障害福祉計画のアンケートについては、相談支援や地域活動支援センターで利用者の記入支援を実施する。入院者に関しては、病院に送付予定。	
5	令和 2年 9月17日 9：15～ 12：00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価		
			(2) 一般相談の支援基準、終結評価基準について		
			決定事項・所感等	障害児の家族から学校進学についての相談をどこにしていけばよいのかわからなかったとの声や、障害を持つ子供の保護者同士で話をする機会を望む声が上がっている。また、進学先の日高特別支援学校への進学希望者が多くなってきたことから受け入れが難しくなっている現状がある。これらのことは自立支援協議会子ども部会にて報告、検討していく。	

6	令和 2年10月22日 9:15～ 12:00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価	
			(2) 終結評価基準について	
			(3) 相談支援部会中間評価について	
			決定事項・所感等	終結評価としてあげたケースについては、支援の緊急性や頻度を基準にA～Eでランクを付け、相談支援部会のなかでその判断基準が適正か、支援状況について検討することになった。
7	令和 2年 12月3日 9:15～ 12:00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価	
			(2) 終結評価基準について	
			(3) 相談支援部会中間評価について	
			決定事項・所感等	今後GSV(グループ・スーパー・ヴィジョン)を輪番制で提出することが決まった。
8	令和 2年12月24日 9:15～ 12:00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価	
			(2) 事例検討	
			決定事項・所感等	事例検討では、利用者の幼少期過ごしてきた生い立ちや家庭環境などから本人像を考えていくことや、今の本人の状態が医療的な視点からどのように判断されるのかアセスメントを行うことの重要性が再認識された。
			(1) 安心ネットワークについて検討	
9	令和 3年 1月28日 9:15～ 12:00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(2) 終結評価	
			決定事項・所感等	道や場所がわからなくなった高齢者を早期発見し、事故などを防ぐ目的で行われている「安心ネットワーク」については、現在障害のある方は対象としていないが、障害のある方についても必要なサービスである。
			(1) 終結評価	
			決定事項・所感等	中土佐町では、性の多様性について相談できる明確な窓口がなくデリケートな問題であるため、相談できずに悩んでいる方もいるのではないかと、また、啓発していくことも必要ではないかとの意見があった。今後子供部会の中で検討を行っていく。
10	令和 2年 2月25日 9:15～ 12:00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価	
			決定事項・所感等	個人情報保護も必要な中で、地域において見守り等してもらいたいケースの情報共有をどのように行っていくかを今後検討していく必要がある。
			(1) 終結評価	
			決定事項・所感等	個人情報保護も必要な中で、地域において見守り等してもらいたいケースの情報共有をどのように行っていくかを今後検討していく必要がある。
11	令和 2年 3月25日 9:15～ 12:00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 終結評価	
			決定事項・所感等	個人情報保護も必要な中で、地域において見守り等してもらいたいケースの情報共有をどのように行っていくかを今後検討していく必要がある。
			(1) 終結評価	
			決定事項・所感等	個人情報保護も必要な中で、地域において見守り等してもらいたいケースの情報共有をどのように行っていくかを今後検討していく必要がある。

会務の運営		所管課	健康福祉課 障害福祉係	委員会・会議名	自立支援協議会 就労部会
委員及び指導者名		委員：須崎公共職業安定所 山下詩織、須崎福祉保健所健康障害課 奥田恵美・梅原愛葉、障害者就業・生活支援センターこうばん 太田真紀、中土佐町身体障害者相談員 南絹江、中土佐町商工会青年部 黒原一人、中土佐町社会福祉協議会 槌田由美・平井千鶴、中土佐町健康福祉課 沖屋亜季・市川雅敏			
回	開催日時	開催場所	協議事項等		
1	令和 2年 7月 9日 15：30～17：00	中土佐町役場 機能訓練室	(1) 令和元年度の就労部会の取り組みについて		
			(2) 令和2年度の就労部会での取り組みについて		
			(3) 令和2年度のスケジュールについて		
			決定事項・所感等	令和2年度は①就労継続支援B型事業所 鯉乃國の萬屋と中土佐町相談支援事業所で就労ケース会を月に1回実施する。②はたらくチャレンジプロジェクトの取り組みとして、障害者向けに一般就労に向けた座学や企業見学、相談会を実施する。	
2	令和 2年11月 4日 15：30～17：00	中土佐町役場 集団指導室	(1) 令和元年度の就労部会の取り組みについて		
			(2) 令和2年度の就労部会での取り組みについて		
			(3) 令和2年度のスケジュールについて		
			決定事項・所感等	中土佐町の企業は障害者雇用について知らない方も多く、周知や啓発もかねてアンケートの実施はどうかとの意見がでた。次年度のとりくみとして検討していく。	
3	令和 3年 2月 9日 15：30～17：00	中土佐町役場 会議室	(1) 令和2年度の就労部会の取り組みについて		
			(2) 令和3年度の就労部会での取り組みについて		
			(3) 次年度のスケジュールについて		
			決定事項・所感等	次年度の取り組みは中土佐町の企業に対し障害者雇用のアンケートを実施する。	

会務の運営		所管課	健康福祉課 障害福祉係	委員会・会議名	自立支援協議会 子ども部会
委員及び指導者名		委員：中土佐町教育委員会 山岡佐也・中越幸香・中城和江、中土佐町社会福祉協議会 平井千鶴、中土佐町健康福祉課 沖屋亜季・山口早苗・大崎有澄・森下麻里			
回	開催日時	開催場所	協議事項等		
1	令和 2年 7月15日 15:00～17:00	中土佐町役場 集団指導室	(1) 中学校卒業後も支援が途切れない仕組みづくり		
			(2) ライフステージ別 サービス一覧の作成について		
			(3) 中土佐はたらくチャレンジプロジェクトについて		
			決定事項・所感等	令和2年度はライフステージ別サービス一覧表の作成を行う。作成はワーキングチームにて実施。	
2	令和2年 11月17日 15:00～17:00	中土佐町役場 集団指導室	(1) 今年度の取り組みについて		
			(2) ライフステージ別 サービス一覧について		
			(3) 子どもに関する課題への取り組みについて		
			決定事項・所感等	ライフステージ別サービス一覧の内容はおおむね決定。今後微調整し、次年度配布予定。	
3	令和 3年 3月17日 13:30～15:00	中土佐町役場 会議室	(1) 今年度の取り組みの振り返り		
			(2) ライフステージ別 サービス一覧について		
			(3) 次年度の取り組みについて		
			決定事項・所感等	令和3年度は「心のケアが必要な子ども」「障害のある子どもの保護者の繋がり作り」についてニーズ把握を行う。	

会務の運営		所管課	健康福祉課 障害福祉係	委員会・会議名	自立支援協議会 住まいの部会
委員及び指導者名		委員：岡村千賀、日林正、吉岡康雄、藤田怜美、せせらぎ園 正岡淳一、一陽病院 大森紀明、須崎保健所 田川浩寿、 中土佐町健康福祉課 市川みずほ、中土佐町相談支援事業所 宮川悦子			
回	開催日時	開催場所	協議事項等		
1	令和 2年10月29日 13:30~15:00	中土佐町社会福祉協議会 大会議室	(1) 平成29年年度提出した要望書の進捗状況		
			(2) 共生型グループホームについて		
			決定事項・所感等	令和3年度は、グループホームの見学や共生型グループホームの運営シミュレーションを行う。	